

講座名	ハブ対策講座
講師名	寺田考紀（沖縄県衛生環境研究所 衛生科学班（ハブ担当）主任研究員）
日時	令和3年6月17日（木） 18:15～19:45
講座の概要 及び所感	<p>今回は、昨年から続くコロナ禍、また、県の緊急事態宣言が発令されていることより、オンライン（Zoom）で講座を実施した。講師の寺田氏には、本学の生涯学習センターより講座を配信して頂いた。</p> <p>講座では、沖縄のヘビ、ハブの毒と被害、ハブの特徴と生態、及びハブ対策のことについて話して頂いた。前半では、外来種のタイワンハブの名護における分布の変遷について、捕獲調査結果を基に説明して頂いた。毎年分布は拡大し、現状としては、名護市内に広く分布していることが示された。東海岸の辺野古地区でも生息が確認されていた。外来種ではタイワンハブ以外にペットで飼われている珍しいヘビも捕獲されていることや、こら外来種ヘビ類が在来の生態系に与える影響についての説明があった。</p> <p>講座では、ハブの特徴と習性を沖縄在来のアカマタやリュウキュウアオヘビ等無毒蛇との比較、また、ヒメハブ等の有毒蛇類との比較しながら説明して頂いた。沖縄のハブ対策の現状として、ハブネットの設置、屋敷周辺の石垣をセメント塞ぐことや、ネットで覆うこと等の環境整備が重要であることや市町村でのハブ捕獲器の貸し出し制度やハブノック・ネオ（蛇類の刺殺スプレー）の紹介をして頂いた。</p> <p>沖縄のヘビ類、ハブ類の現状、移入ヘビ類の現状を理解できた、環境教育の観点から非常に有益な公開講座であった。</p>
参加人数	31名+（関係者4名）